

「蓄電システム診断利用ネットワーク・アライアンス」実施計画書

1. 背景

大阪科学技術センターでは、1992年に「アドバンスト・バッテリー技術研究会」を設置し、産学官連携のもと、新型二次電池の研究開発に長期的な視点で貢献してまいりました。その活動は、国内外の先進的な研究者・技術者間の情報交換と共同研究を促進し、日本の電池技術の発展に不可欠な役割を担ってきたと自負しております。また、リチウムイオン電池に代表される二次電池は、モバイル機器から電気自動車、さらには定置用蓄電池に至るまで、現代社会のエネルギーインフラを支える基幹技術へと成長しました。

しかし、近年、グローバルな電池産業の勢力図は大きく変化しています。特に中国企業の台頭は目覚ましく、圧倒的な生産能力とコスト競争力を背景に世界市場でのシェアを急速に拡大しており、日本産業は厳しい競争に直面しています。

このような状況で、日本が電池産業における競争力を維持・発展させるためには、新規の電池開発や量的な生産拡大だけに留まらない、新たな価値創造の視点を持つことが喫緊の課題です。そこで私たちが注目しているのが、「蓄電池市場の循環経済への移行」です。

BEV・PHEVの普及に伴い、これらEVで使用された蓄電池をリユースする動きが加速し、市場規模が急速に拡大することが予測されています。一方、電力取引市場での蓄電システムの活用が本格化することや、再生可能エネルギーの急増と出力抑制を背景とした電力系統の需給バランスを改善する系統・再エネ併設分野の成長も見込まれています。さらには、近年、エネルギー価格の上昇や電力需給のひっ迫に加え、導入補助政策の整備によって、電力の自家消費や需給調整力電源としての蓄電池および蓄電システムの需要が高まり、蓄電池産業は拡大しています。

ところが、実際にはリユースバッテリーの性能評価、特に残存寿命に関する評価は容易でなく、さらに信頼性・安全性評価を総合した残存価値として評価する共通的な仕組みが業界にはありません。そのため、蓄電池の効率的なカスケードリユース（多段階利用）は限定的な取り組みにとどまっているのが現状です。

こうしたリユースバッテリー取引において、リユース用途での要求事項を勘案した電池診断技術の活用ノウハウやハウツーが共有され、環境が整備されれば、市場の透明性と信頼性が向上し、二次流通が活性化します。これにより、バッテリーの残存価値が明確になり、適正に評価されることで、カスケードリユース市場への健全な供給が促されます。

また、多様な診断技術と活用方法が体系化され、共通認識が進むことで、市場全体のイノベーションが加速し、市場の拡大とともに、専門的な診断サービスへの需要も大きく拡大します。

2. 目的

こうした背景から、蓄電システム診断や利用に関心を持つ関係者が一堂に集まり、情報共有、相互理解、問題解決、アイデアの創出、ネットワークの拡大などが必要と考えています。

そこで、関係するメーカーからユーザーまで、上流～下流工程に対応する業界の企業・機関が集まり、実務レベルでの信頼性の高い蓄電池の診断や寿命予測、利用の知見を集積する場、業界横断的な共有共通の認識の場、パートナー探索・人材研修の場として、蓄電池の診断・利用に特化したアライアンスを設立し推進します。

3. 活動概要

(1) 活動内容

- ・講演、見学会等各種活動の企画および関連する調査
- ・情報交換会
- ・大型プロジェクト等への提案

(2) 推進体制・構成（予定）

座長	辰巳国昭氏（（一財）電気安全環境研究所 顧問）
副座長	内本喜晴氏（京都大学大学院 人間・環境学研究科 人間・環境学専攻 教授）
オブザーバー	経済産業省、近畿経済産業局、(国研)産業技術総合研究所、(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構、(独)製品評価技術基盤機構、(地独)大阪産業技術研究所、(一財)電気安全環境研究所、(一財)電力中央研究所、(一財)日本自動車研究所、(一社)電池工業会、(一社)電池サプライチェーン協議会他
事務局	(一財)大阪科学技術センター
協力	(公社)関西経済連合会

活動の企画にあたっては幹事会を構成する。

大型プロジェクト等への提案も幹事会で進め方を議論する。

(3) 開催概要（2026年度）

回	時期	形式	内容・狙い
第1回	7月	全体＋セッション	・キックオフ、年間パネルセッション説明 ・国や業界の動向 ・パネルセッション
第2回	9月	全体＋セッション	・事故・トラブル・リスク事例 国内編 ・パネルセッション
第3回	11月	見学会	安全・発火体感 or 診断技術 or 蓄電池製造
第4回	12月	全体＋セッション	・事故・トラブル・リスク事例 海外編 ・パネルセッション

第5回	2月	全体＋ セッション 総括	・座長講演 ・パネルセッション ・年間の成果発表、次年度計画
-----	----	--------------------	--------------------------------------

※現在、より充実した活動すべく、特定のテーマに焦点を絞った分科会の準備を進めています。具体的な内容や募集要項等については、上半期中にはご案内させていただきます。なお、分科会活動は会費制（参加費別途）での運用を計画しております。

基本構成：「全体講演＋テーマ別パネルセッション」（オンラインも併用）

（例）：

前半（60分）：全体講演（行政動向やトラブル事例等の話題提供）

後半（60分）：パネルセッション（ディスカッションに参加 or 聴講）

最後（30分）：セッションで話された「結論・未解決点」を全体で共有

（4）年会費

幹事会員（各種活動や分科会に関する企画立案を行う幹事会へ参画等）

100万円 ※5社程度を想定

一般会員（聴講と意見交換のみ） 15万円、OSTEC 賛助会員 10万円

※いずれも消費税込み

※OSTEC ウェブサイトに賛助会員一覧が掲載されていますので、該当するかわからない場合はご確認ください。

原則、会員企業に所属であれば、1社何名でも参加可能。

毎回立食交流会あり。交流会は無料。

（5）入会特典

2025年度の活動内容や調査事項をまとめた書誌を1冊プレゼントします。

（6）今後のスケジュール

4月 募集案内

4月下旬 幹事会員、事務局サイドとの企画会議

5月下旬 第1回開催案内

7月 第1回開催

4. 事務局

申込方法はホームページにてご案内しています。 <https://denchi.ostec.or.jp>

一般財団法人大阪科学技術センター 技術振興部

檜垣、大原、澤坂（denchi@ostec.or.jp）

〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4 TEL: 06-6443-5320 FAX: 06-6443-5319